

## ◆ 今週のコメント

- ・ アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(男性, 40歳代)あります。症状は粘血便で, 推定感染経路は性的接触(異性間)です。(第2週分)
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.76(236例)で, 前週(7.10, 291例)より減少しています。平成24年第48週(11月26日～12月2日) 16.37(671例)をピークに減少しており, 平成25年第1週(平成24年12月31日～平成25年1月6日)以降は過去5年平均値を下回っています。

## ◆ 今週のトピックス: &lt;インフルエンザ&gt;

インフルエンザの定点当たり報告数は14.01(939例)で, 前週6.34(425例)に比べ倍増しており, 注意レベルの「10」を上回りました。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

## 全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 1例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 なし  
【1月以降の累積報告数 7例(肺結核 4例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 3例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 2例】

## 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

| 定点              | 感染症名            | 定点当たり報告数 | 報告数 |
|-----------------|-----------------|----------|-----|
| インフルエンザ         | インフルエンザ         | 14.01    | 939 |
| 小児科<br>(降順5位まで) | ① 感染性胃腸炎        | 5.76     | 236 |
|                 | ② 水痘            | 1.20     | 49  |
|                 | ③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 0.68     | 28  |
|                 | ④ 突発性発しん        | 0.39     | 16  |
|                 | ⑤ RSウイルス感染症     | 0.27     | 11  |
| 眼科              | 流行性角結膜炎         | 0.30     | 3   |

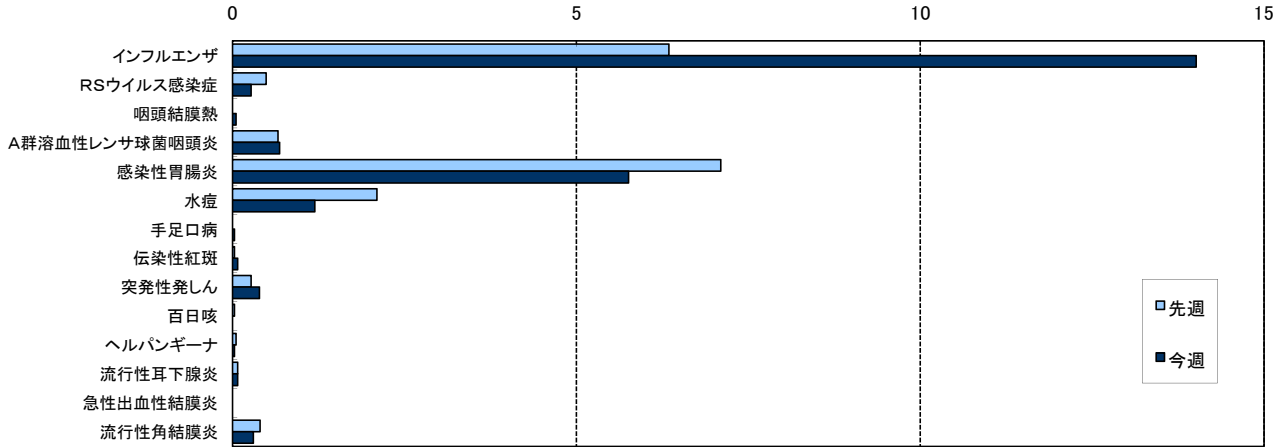
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成25年1月24日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

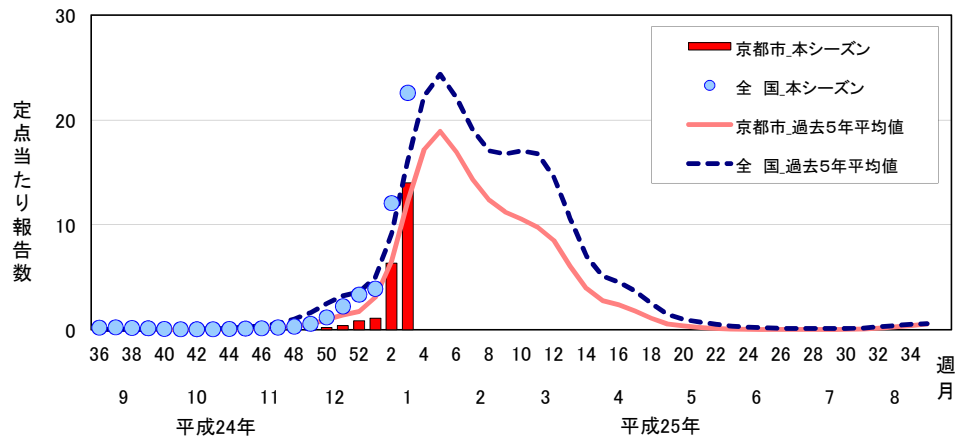
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第3週)と先週(第2週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

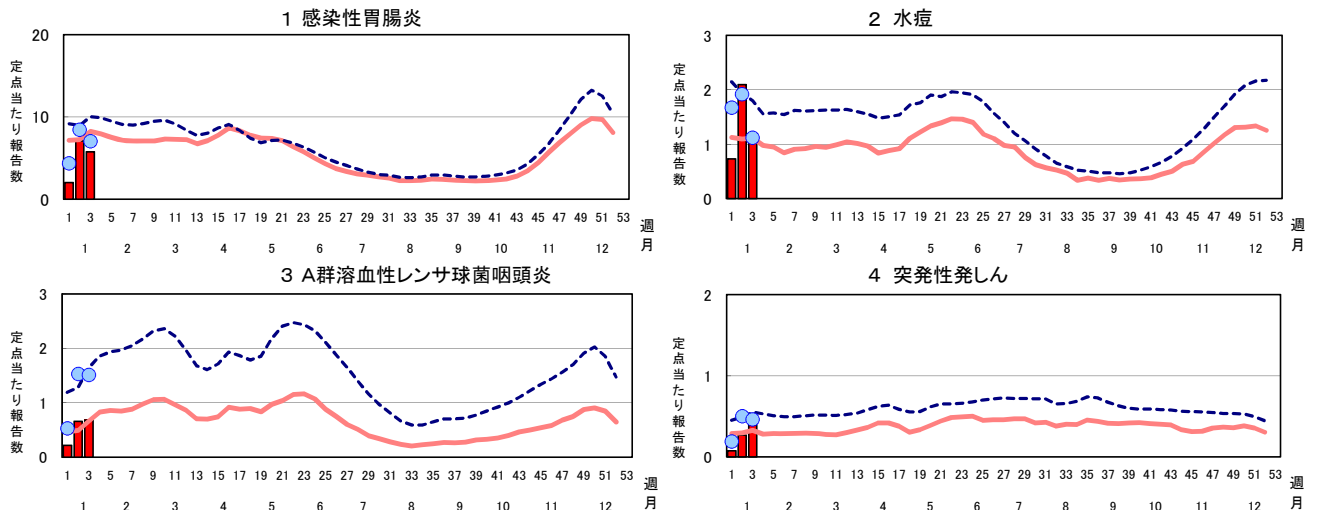
| 週                 | 報告数(例) |
|-------------------|--------|
| 第51週              | 27     |
| 第52週              | 58     |
| 第1週               | 73     |
| 第2週               | 425    |
| 第3週               | 939    |
| 累積報告数<br>(第36週以降) | 1551   |



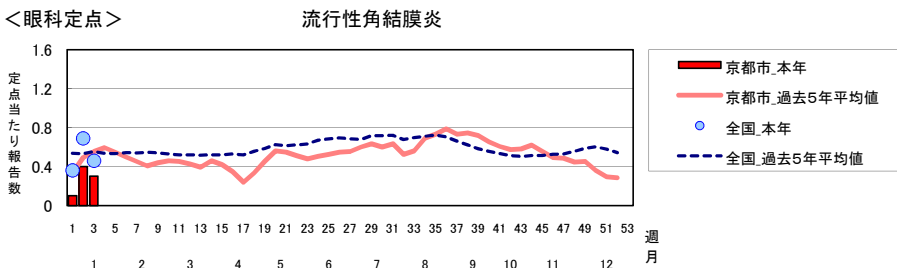
\*平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



# 第3週(1月14日～1月20日)トピックス: <インフルエンザ>

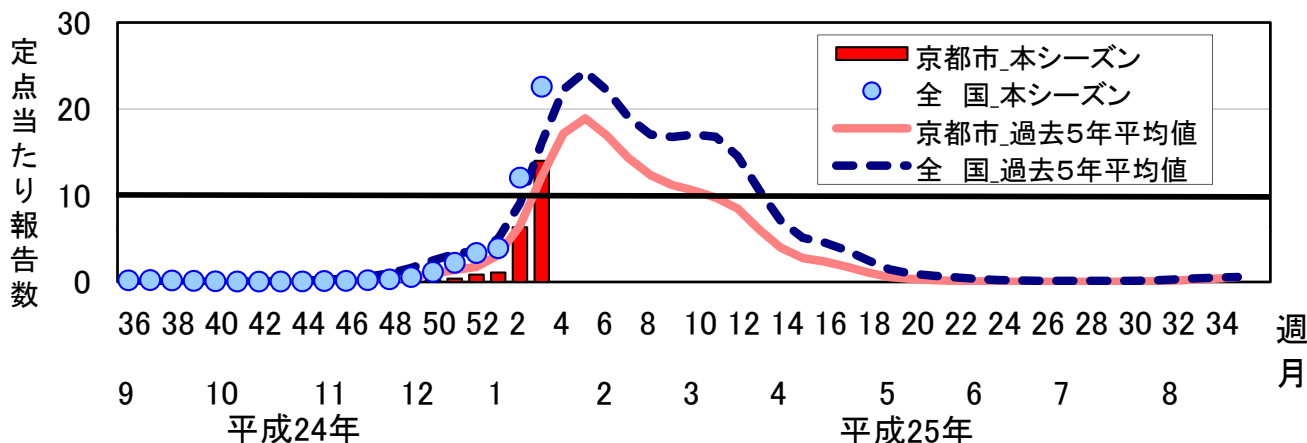
インフルエンザの定点当たり報告数は14.01(939例)で、前週6.34(425例)に比べ倍増しており、注意報レベルの「10」を上回りました。今後の動向にご注意ください。

年齢群別では、すべての年齢群で報告があり、前週よりも増加しています。5歳～9歳が164例(17.5%)と最も多く、次いで0歳～4歳が150例(16.0%)、20歳～29歳が123例(13.1%)、10歳～14歳が120例(12.8%)となっています。

京都市衛生環境研究所では、今シーズンに、AH3型が2例、AH1pdm09が1例、B型が1例、分離検出されています。

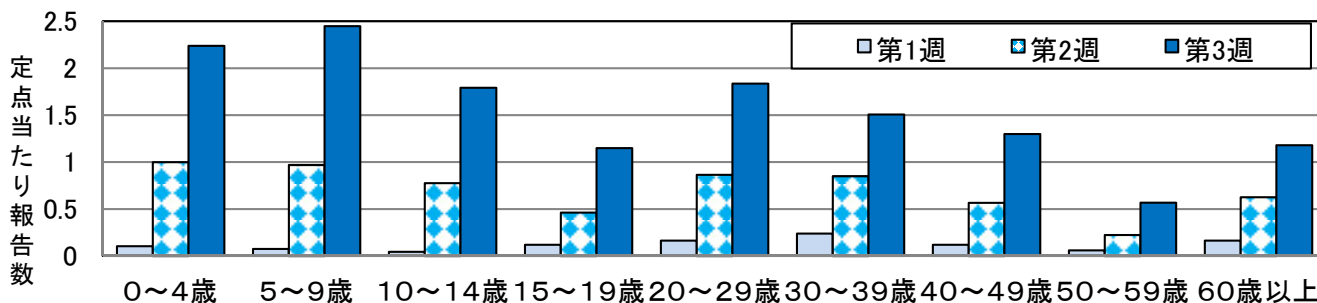
なお、全国のインフルエンザウイルス分離検出報告数は、A(H3)型 697例、A(H1)pdm09 30例、B型 58例となっています。(平成25年1月28日現在)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



\*平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

年齢群別定点当たり報告数の推移



シーズン別インフルエンザウイルス検出状況(京都市及び全国)

